

◆ 地域の特産品である「い草」にちなんだ地域活性化のイベントや商品開発・販売に取り組むことで、計画力・チームで働く力などを育んだ事例

早島町立早島中学校

『IGUSAを早島から世界に！』プロジェクト

活動の流れ

①出前授業

今後の活動の参考にするため、「起業」という視点で講演を聴く。

②運営組織設立

商品開発部、IGUSA卓球部、CAFÉ部を組織し、役割や分担を決める。

③有識者からの指導

起業について専門的な知識を有するアドバイザーやい草商品に詳しい地域の方の指導の受け、商品開発に取り組む。

④IGUSAラケット卓球大会

地域の方との交流をテーマにしたIGUSA卓球大会を企画・運営したり、い草を用いた商品開発のプレゼンテーション及び試作品の展示、い草スイーツや飲み物を販売するなど、地域交流に取り組む。

⑤商品販売

地域のイベント等で自分たちが企画・制作したオリジナル商品を販売する。

⑥成果発表

ホームページ、町広報誌、学校新聞、参観授業、「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」を通して取組を発表する。

生徒の活動

実施組織

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| ・商品開発部 | 商品企画書の作成
商品試作・開発
商品販売 |
| ・IGUSA卓球部 | 大会の企画・運営
チラシ作成
IGUSAラケット作成 |
| ・はやしまCAFÉ部 | CAFÉ販売商品試作
接客マニュアル作成
広告原稿作成 |



IGUSAラケット卓球大会



IGUSA関連商品



いぐりCAFÉ

生徒の振り返りより

- いろいろな角度から物事を見て、課題を見つけ、班の人と話し合ったり、考えたりして、工夫しながら課題を解決していく力が付いた。
- CAFÉ部で、宣伝用の顔出しパネルを自分で考え作成したことで、委員会で取り組んだ卒業式の飾りづくりにも積極的に取り組めた。
- 一からいろいろなものを作ったことで、ものづくりの大変さや楽しさを実感でき、将来はものづくりに関わる仕事に就きたいと考えるようになった。

成果

- IGUSAラケット卓球大会、はやしまCAFÉの企画・運営、い草関連商品開発を目指すことによって、「課題を発見し、限られた時間で計画的に他者と協働する必然性」が生じ、その必然性を継続して、生徒に意識させることにより、課題発見力・計画力・チームで働く力などが養われた。
- 試行錯誤しながら失敗や成功を積み重ねる中で、未来像を予測して計画を立てる力や批判的に考える力などが育ち、生徒自身の自己肯定感の向上が見られた。
- い草による地域の活性化に向けた取組を通して、地元の人々や企業の方々と交流し、社会の一員であることを体感することができた。